「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。

編集後記

日常なにげなく暮らしていると、「札幌は都市だ。街だ。」と思いがち。そして「森に行く」というと、知床や黒松内、大雪といった、日々の暮らしの場から離れた遠い場所を思い浮かべてしまいます。「森＝非日常の場」であり、遠くにあるものという思い込みを知らず知らずに持ってしまっているのかもしれません。

ところが航空写真を見てみると、むしろ札幌は森に囲まれた場所だと気づかされます。街中にも、たくさんの小さな林も点在しています。

不思議なことに、森はこんなに身近にあるものなのに、日常では身近に感じません。それはきっと森に入っていないからなのだろう…と思います。

ならばと、いざ森に入ろうと思っても、手入れのされていない荒れた森は人の出入りを拒むかのような雰囲気を漂わせます。手入れがされないのは積極的に手入れをするメリットが無いから。そのため手入れがされない森が増え、そして人との距離がより遠ざかるという悪循環がそこにあります。

森が宝物であることに気がつくには、まず森に入らなければ始まらない。森に道を造ることは、森のすばらしさを肌で感じ、身近にある大切な宝物であることに気づくための入り口づくりとも思えます。

北海道の秋は駆け足で過ぎ去っていきます。今年の秋は身近な森を歩いて、身近な森の魅力を再発見したいと思っています。

モリイク vol.02　2011年9月発行
発行元/ コープ未来の森づくり基金
〒063-8501　札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
TEL/ 011-671-5651（コープ未来の森づくり基金事務局）
制作/ LLCのこたべ

■コープ未来の森づくり基金は、組合員さんのノーレジ袋へのご協力で支えられています。

この冊子は環境に配慮して大豆油インクおよび100%再生紙を使用して作成しています。

コープ未来（あした）の森づくり基金レポート

モリイク

MORI - IKU

森に行こう。
森で育とう。
森を、育てよう。

vol.02
Sep. 2011

北海道のあしたの森を育てる
コープ未来（あした）の森づくり基金

コープさっぽろ　CO-OP one for all, all for one.

2011・国際森林年

モリ*イク

足元を見ると、木の子ども達がいっぱい。
この子たちが見つめている未来はどうなっているかな。
私達の未来はどうなっているのかな。

さあ、確かめるために森にいこう。

* contents *

*02 コラム　森づくりのトレンド
未来のための市民による森づくり

*04 特集　NPO法人 森林再生ネットワーク北海道
その道の向こう側に

*08 木を使うことで再生する森
家具工房 旅する木

*10 親子で楽しむ森のページ
森のキレイキモイ

*12 コープ未来の森づくり基金報告
コープの森植樹祭2011

*15 おしらせ・アンケート＆プレゼント

Starting Column
森づくりのトレンド

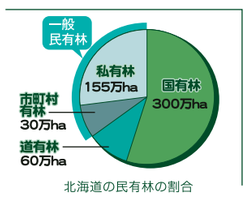
未来(あした)のための市民による森づくり

北海道には約550万ヘクタールの広大な森林があります。

このうち約300万ヘクタールは国有林、約60万ヘクタールは北海道有林です。残りのうち30万ヘクタールは市町村が管理する市町村有林、155万ヘクタールが個人や会社が持っている私有林で、この二つを合わせて「一般民有林」と呼んでいます。

す。

国有林や道有林が一般に奥地にあるのに対して、一般民有林は人里に近接して存在しており、私たちが普段目にして親しむ機会が多い森林です。また、人工林資源が育成されてきていることから、2009年の北海道の木材生産の約64%を占めています。私たちの身近にある森林として、また木材供給源として重要な役割を果たしているのです。



北海道の民有林の割合

一般民有林のなかで、個人で森林を持っている方は全道に約13万戸あり、このうち5万戸強が農家です。こうした個人所有の方々は所有の規模が一般に小さく、専業で森林の経営をしているわけではないので、適切な森林の経営を行うことが難しい状況にあります。そのため、農業における農協と同様に、森林組合という協同組合組織をつくって、森林の管理や木材の販売・加工を支援するなどして所有者を支えています。

森林所有者が森林を経営する目的は木材生産による収入を得ることがほとんどです。ですので、森林経営が経済的に成り立たないと、森林を経営するインセンティブが働きません。しかし木材価格の低迷など厳しい経営状況が続いているため、所有者は経営意欲を喪失しており、森林をきちんと管理しなかったり、森林を伐採しても、再び木を植えずに放置している状況も生じています。また所有者の高齢化が進んでいますが、後継者の多くは農山村を離れて都市に住んでおり、自分の家の森林がどこにあるのかも知らないことも珍しくありません。このまま状況が悪化すると、単に森林が適切に管理できないというだけではなく、誰がどこの森林を持っているのかもはっきりしない状況が生じてしまいます。

もちろん、森林所有者の中には森林づくりの高い技術を持ち、立派な森林を育成するとともに、地域の森林づくりのリーダーとしての役割を果たしている人々もいます。また、森林組合などが中心となって、質の高い森林管理を効率よく行って、より良い森林づくりと、持続的な木材生産、そして森林所有者への利益の還元を両立させようとして頑張っているところもあります。適切な森林管理のためには林業が経営的に成り立つことが必要であり、こうしてつくられる木材製品を使うことによって、頑張っている人々を支え、取り組みがさらに広がっていくようにすることが重要なのです。ただし農産物の様に毎日使うものとは違って、家を建てる、家具を買うといったことは一生の間にそうそうあることではなく、地産地消を実行する機会はめったにはないという課題があります。

地産地消型の住宅供給に取り組んでいる森林組合の職員の方と話した時に印象的だったのは、都市の方が地域の森林づくりや森林組合の努力に共感してくれて、住宅を建ててくれ、さらにそれをきっかけに地域に足しげく通ってくれることが、「頑張るぞ」という力の源になると語ってくれたことでした。モノだけのつながりでない、顔の見えるつながりをつくっていくこと、それを市民の人々が積極的に参加・応援することが大事だと思います。

本号で紹介しているように、民有林の所有者を支援するNPOが活動し始めており、市民の方も様々な形で活動に関わっています。また、自治体や森林所有者の中には市民のボランティア活動の機会を提供したり、森林所有者や林業関係者と市民との交流の機会をつくっている方々もおられます。こうした活動に参加・支援することを通して私有林を支える裾野を広げることができます。

コープ未来(あした)の森林づくり基金でも民有林の管理を支える様々な取り組みに支援をしているほか、組合員の方々との交流の機会を設けています。こうした機会を活用していただきながら、私たちの生活に身近な民有林を応援の仕方を考えていただければと思います。

柿澤　宏昭
（かきざわ　ひろあき）
北海道大学
森林政策研究室 教授
コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。現在、北海道大学農学部森林政策研究室教授。
持続的な森林管理を多様な人々の協働で支えるしくみづくりをテーマに研究を行っている。また、欧米、ロシアなどの森林管理政策にも詳しい。主な著作に『エコシステムマネジメント』（築地書館）。2008年より「コープ未来の森づくり基金」運営委員長を務める。

人と森をつなぐのが仕事
というのは2010年度の高額助成を受けた団体
NPO法人森林再生ネットワーク北海道
通称「もりねっと北海道」。
森と人がつながるために必要なのが
「道」なんだそうです。
それってどういうことでしょう。

その道の向こう側に

森ってさ、
ちょっと
いいよね。

ちょっとイイよね！

ちょっといいよね。
森と人のつながりをつくる

NPO法人
森林再生ネットワーク北海道

森の居心地の良さと
暮らしの基盤としての森

ある日の旭川郊外の民有林。集まったのは幼児とそのお母さん。子ども達は網を持って虫を追いかけたり、おっかなびっくり桑の実を口に入れてみたり、何でもかんでも興味津々。

この日は、幼児が自然体験をする機会が少ないという旭川市で、幼児とお母さんのために開かれた「森であそぼう」というイベントの日。森で色んな形の葉っぱを集めて、カードにして遊んだり、ミツバチの巣を使って蜜ろうのクレヨンを作ってみたり。参加した皆さんは楽しい時間を森で過ごすという体験をしました。

森に関わる様々なものって、みんな楽しく広がる遊び道具になる。親子で森で過ごす時間って、やっぱり非日常で特別な時間になる。帰ってからも、森で作ったクレヨンでのお絵かきが楽しみ。森でのちょっといい時間を過ごした参加者の皆さんは、きっと「森って、ちょっといいね」と思ったことでしょう。

またある日は、カタクリが咲き乱れることで多くの人から愛されている旭川の里山、突哨山にメンバーが集まりました。

鬱蒼（うっそう）とした植林地で、突哨山（とっしょうざん）を管理する協議会の皆さんと相談しているのは、間伐をしないで放置されたトドマツやヨーロッパトウヒなどの植林地をどう管理していくかについて。

当初は材木の木を育てるためだった森が、長く放置されたので木材としても、森としても活力がなくなってしまったのです。専門家の意見を聞きつつ、森を歩いて様子を確かめながらみんなで考えます。その森については、遊歩道を歩く多くの人のために、間伐をして明るくなった森、放置されたままの暗い森がそれぞれどう変わっていくのかを比べてもらうための展示林を目指すことになりました。これから長期に渡って何度も手を入れ、ここを見た人が「ちょっといいよね」と言える森ってどんな森なのか？ を考えてくれるような、そんな森になっていくのでしょうね。

ちょっといいよね。
そこから始まる未来へ

森林再生ネットワーク北海道、通称「もりねっと北海道」が目指すのは、森で体験活動やイベントを通じて、森の心地よさを広めること。もうひとつは放置された森の管理をアドバイスしたり、実際に行ったりすることで、生産の場としても、暮らしの場としても重要だった森林の再生を進めること。

森と人をつなぐこの活動がみんなの心に育んでいるのは「森ってさ、ちょっといいよね」という気持ち。実はこんなちょっとの気持ちが北海道の森林再生につながっているのだと、「もりねっと」の皆さんは今日も森を歩いています。

もりねっと北海道information
活動に興味のある方はこちらにお問い合せください
〒070-8031 旭川市神居町神華155-7
0166-69-0066
http://www.morinet-h.org

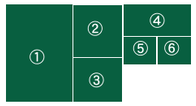
ちょっといいよね！

森に入れば、手入れができる。
森に入れば、恵みをいただける。
森に入れば、ちょっといいよね。
その向こうに北海道の未来がある。
だから、

森に道を造ろう。

「もりねっと北海道」の活動の意味ってなんだろう。
森に道を造ることが何につながっているのだろう。
代表の陣内さんに聞きました。

陣内 雄（じんのうち　たけし）さん。NPO法人森林再生ネットワーク北海道代表
建築を学び、仕事としていたが、その後林業先進地を視察し、下川町森林組合で林業に就く。
音楽や地域活動など、様々な活動を経て2006年に「もりねっと北海道」を設立。札幌市出身。



① 森への影響を最小限に道を造り、少しずつ施業できる「森の道」。
森とふれあうための入り口でもある。

②③ 大がかりな間伐をした森と、そのための基幹作業道。
森へのダメージが大きい。

④⑤⑥ 森の恵みに遊び、「ちょっといいね」
と感じることから全てが始まる。

どんな小さい事業でも新しいモデルをつくりたい

旭川の市街地を取り囲む田園と森が織りなす丘陵地帯の美しい景観を望みながら「ここから見える森はだいたい民有林なんです」と語るのは「もりねっと北海道」の代表、陣内（じんのうち）　雄（たけし）さん。かつて森林組合で働き、林業のあり方に疑問を感じつつも、組織の中ではその枠から出られないジレンマを感じていました。だから、「どんなに小さくても、自分の良いと思う新しいモデルづくりをしたい」と「もりねっと北海道」を立ち上げ、北海道の森林再生のために活動を続けています。

育てるためではなく、伐るために間伐している森

何から手を付けたらよいのか分からないほど森林を取り巻く問題は多いと言います。その中でもりねっと北海道の活動の舞台となっているのは民有林。

「民有林の問題点は、森を持っていてもお金にならないから手入れをしなくなる、そして森が荒れるという悪循環にあります」というのは、間伐は手入れに手間がかかるのに、間伐材として伐採した木は安い。だから積極的に手入れをする人が少なくなってしまうということ。間伐をする業者はなんとか採算を合わせるために、大きな機械で森に入る手荒い間伐作業になってしまうので、どうしても本来育てるべき木々も傷ついてしまう。こうなると、将来に木材にしようとしても価値が下がる。でも、補助金が出るので、間伐作業は行っている。各地で森林組合や業者もがんばってはいるけれど、何かもっとできることはないだろうか。この問題をどうにか解決しようともりねっとが取り組み始めたのが、「森の道」です。

「ちょっといい」森は道からはじまるんだ

「森の道」はショベルカーで作る小規模な林道ですが、砂利や資材を持ち込むことなく、現場の植生や伐根（ばっこん）を利用して路肩を固め、木々を縫って道を造るために伐採する木も少ないし、何より低コストで森の中に道を張りめぐらせることができるのが優れたところ。

一方で、この道を造ることで人が山に入れるようになる。それがとても大事なのだと陣内さんは語ります。あるケースでは、ずっと前に自分の山にカラマツを植えたけれど、その後一度も入っていないという山主さんが、道がついて森に入った。すると、自分の森や植えたカラマツがどうなっているのかを初めて認識することができたそうです。そこから積極的に間伐を手伝ったり、ツリーハウスを作りたいと夢が出てきたり、山に関わる姿勢が変わってきたと言います。

入れなかった森に人が入ることで、多様な森の恵みを受けられるようになる。そうしてみんなに森の価値が認識されて、「森って、ちょっといいよね」と思うきっかけが生まれる。山主さんが「ちょっといい」と思った森の価値は、子どもに、そして周囲に伝わっていく。その広がりを作るために、山に入るための道が大切だと話します。

もうひとつ、「森の道」を作る大きなメリットは、細かい森林施業（せぎょう）ができるようになること。コストに合わないからと一気に森を壊してしまうようなことをせず、機械を森に入れずに道の上で作業ができるので、木の根や土を守り、自然に生えた木を活かして、ていねいで森のスピードに合った手入れをすることができます。

全てにとって森は大切でしょう

北海道の森林を大切に想う理由について陣内さんは言います。木材や山菜などの林産物による直接の恵みのほかに、「森林は生産の全ての基盤ですよね。水を作り、土を作る。そして木材は家を作る。暮らしの全ては森から始まるんです」だから北海道の森は「宝物そのもの」なのだと。

森は本来公共のものだと思う

「今、森は山主さんにとって負債かもしれない。これが財産になるために、スタートラインに立てるモデルをつくるのが僕たちの仕事だと思っています」と話すように、今の北海道の森林は木がまだ細く、財産的な価値も低いのが現状です。

そもそも森林は水や土を作り、恵みを生み出す公共性の高い環境。私たちみんなにとっての宝物です。「だから本州では入会地（いりあいち）としてみんなが管理してみんなが恵みを受けていたんだよね」戦後の農地解放で里山も農地と共に個人に分配されてしまいました。しかし、森も木材も、畑と作物と違って個人でどうにかなるものではありません。「そこが農業や漁業とちょっと違うところなんです。でも、そこに気づいている人は少ないんですよ」。

そしてまた、森が個人の持ち物になったから短い期間の利益に目が向くようになってしまったと言います。「昔は100年先のことを考えて森を作るって、当たり前だったんですよね」森はみんなのものだったから、当然子ども達のことも考えて森と関わる。そうすると森の時間に合わせた管理ができた。でも、そうしたつながりが薄れてしまった今、これからは個人所有となった森を共同で長期的に経営できる仕組みが必要かもしれません。

森が変われば、北海道は大きく変わる

その頃と今では状況は違います。だから、森に道を造ることで人が森の価値を少しずつ再認識し、森を大事にしながら生産とくらしの場に戻っていくというプロセスが大切。「そうするとね、北海道の木材自給率はあと50年もすれば100%を超えると思うんです。今、ここから見えている森が全部みんなの仕事場になるんですよ。そうしたら北海道は大きく変わると思いませんか？」と、陣内さんはその想いを語ってくれました。

森林再生のためにやることはたくさんある

低コスト、低環境負荷で間伐に高い効果をもたらす「森の道」は、今は無価値と見なされてしまっている森林を再生させるための鍵になります。でも、その林道の作り方はまだ道内ではほとんど広まっておらず、1回の間伐のためだけの土を切り崩した道が主流です。だから、森林再生のために「森の道」を造る技術を修得し、それを広めていくことも大切な役割だと言います。

今の森の管理は、みんなの目に見えないところで行われています。少しでも市民が森に入ることで、林業や森の保全のことが見えてきて、市民の立場で発言できるようになっていく。そのことは、森林管理や林業が、木材生産だけでない森の守り手に変わっていけるチャンスなのかもしれません。

「森ってちょっといいよね」そんな気持ちから始まるよ

まさに何から手を付けたらよいのか分からないほどに森林を取り巻く問題は多くあります。でも、そんな中で農家のお父ちゃんが森の手入れが楽しくなって、冬にパチンコに行かなくなったり、山主さんが孫を連れて森に入り「ここでばあちゃん生まれたんだよ」「ここに家があって住んでたんだよ」なんていう会話があったり、町の人を招いて森の恵みを頂くイベントを開いたりする。そんなちょっとした森からの恵みを楽しめるようになることから、北海道の森林再生は始まるのでしょう。

森の恵みを頂いて「ちょっといいよね」という会話から北海道の森の再生への道筋は、豊かな森を誘う「森の道」の向こう側に、もう見えているのかもしれません。

植える→育てる→使うことで保たれる森林。
木を使うことも、森を守ることにつながっている。

旅する木 家具工房

後世に伝えたくなるような家具をつくる。
長く使える家具をつくる。
そのことで人と森の関係は変わると思う。
丁寧に心を込めて、語りかけるように木に触れる。
そんな家具職人さんに
木に触れることの大切さについて聞きました。

例えば、コープさっぽろ西宮の沢店ふれあい交流室の道産ミズナラ材を使ったシンプルな形のテーブル。

私たちが木の製品を使うとき、機能やデザインだけでなく、その木の物語を考えることで、その製品への感じ方が変わると言います。木の「物語」って、どういうことなのでしょう。

大手光学メーカーで開発をしていた須田さんが、効率や経済性を重視したものづくりに疑問を持って家具づくりの道に入ったのは14年前のこと。「効率ばかりじゃなくて、人間を基準にものづくりがしたかったんです」と話す須田さんの作る家具は、世代を超えて長く使えるデザインがこだわりです。「使う人が愛着を持てるように考えるんです。愛着があると、長く使うし、壊れても修理して使ってくれる。それこそ子や孫にも伝えたいものとして」。

長く使ってもらいたいという思いの裏には、畏怖(いふ)を抱くような深い森を、木々を敬(うやま)いながら歩くのが好きという須田さんの願いがありました。「伐った木は、家具になって次の人生が始まります。その第二の人生をなるべく長くしてやるのが僕の役目だと思うんです」。さらに、「森と人の付き合いで大変なのは、木と人間では時間のスケールが違いすぎること。人間の方がずっと寿命が短い。だから木のものを長く使うことでサイクルが合って、人と森の関係も上手く行くと思っています」長く使うことの意味は、森と人が上手に生きていくための方法でもあるのです。

そして家具と同じように伝えていきたいと話すのが、日本古来から伝わる仕口や継ぎ手の木工の知恵、鑿(のみ)や鉋(かんな)の技術。木の人生と共に、人が培った技術を後世に伝えていきたいというのが、須田さんが家具に込める想いです。

「木を使うことが心地よいのは、木が生きているからだと思いますよ。だから大変なこともありますけどね」と笑うのは、木と向き合う時に思うこと。「居心地が悪いと割れたり反ったりして、木もちゃんとしゃべるんです」だから、毛布でくるんだりして常に快適なコンディションに保ってやる。こうした木との会話を積み重ねるから使う人にも心地よさが一層伝わるし、長く使うことで愛着や家具に込められた物語も生気を得るのでしょう。「木の製品を買うとき、値段や形ではなくてその裏にある物語を知って選んでほしいんです。どんな木でどこに生えていて、どんな人がどんな思いで作ったものなのか、それを知ると、ただの木がぐっと愛着のあるものになるから」。

長く使えるものを作ること。それが人と木と森のよい関係を作る。だから手間を惜しまずに難しい細工を施し、時間のかかる仕上げもいとわない。木と森を敬い、木と人のつながりを想う須田さんの気持ち。コープさっぽろ西宮の沢店のテーブルも、木造の店舗に合わせて木にこだわり、脚までミズナラ材にするために実は何度も試作を重ねた品。木のぬくもりいっぱいのテーブルを長くみんなに使ってほしいという物語が息づいているのです。

そんな「物語」が詰まっていると知ったら、私たちが普段使っている机だってただの机ではなくなり、愛着を持って長く使いたくなります。

家具工房 旅する木
須田 修司さん

大手光学メーカー勤務ののち、家具職人を目指して北海道に移住。旭川で修行して2005年に「家具工房 旅する木」を設立。2008年に当別町旧東裏小学校に工房を移転。長野県出身。

ホームページ　http://tabisuruki.com/

※「家具工房 旅する木」の樹木見本コースターを読者プレゼント。
詳しくは15ページをご覧下さい。

木づかい Column

スプーンから森へ。

最近、愛用している木で作ったモノがあります。それは木のカレースプーンです。これはまさに魔法のスプーンといっても言い過ぎではないと思っています。どんなカレー（シチューでもいいのですが）でも、これで食べると本当においしいんです。木の器の町置戸(おけと)町・オケクラフトの技術と女性作家の木目の細かいデザイン性のコラボが「木のよさ」をうまく引き出し、この美味しさを実現しています。

まずは口当たりが「熱く」ない。「断熱効果」これは木の特徴ですよね。逆にアイスクリームなどの冷たいものを食べるときなども、「木のスプーン」がお勧めです。冷たさで舌が麻痺することなく、アイスクリーム本来の味が楽しめます。

次に口当たりが「よい」。口へのフィット感がたまらなくいいんです。カレーの香辛料が口いっぱいに広がる感じられるように丁寧に仕上げられているのが分かります。これは木という素材が削りやすく、細かな加工がしやすいものだということを教えてくれます。

そして軽いが質感がある。スプーンを通して、ご飯やその上に乗ったカレーを直に手で持っているような感じがして、手でも味わっている感覚があり、その刺激が食欲をそそります。

木のカトラリー。北海道で木育生活をはじめようと思っている人にはおすすめです。身近でかつ、購入しやすいものです。特に女性作家がデザインをしていることが多く、機能的かつかわいいものも多くなってきました。お気に入りの木のカトラリーから北海道の木や森を想像するのも楽しいです。

「軽くて、丈夫で、身近にあるもので作ってほしい」。

幼稚園に木の椅子を寄贈することになった時に、先生や保護者からでた言葉でした。

制作を担当した旅する木・須田さんが「うーん」と考え、選んだのが「クルミ」の木でした。北海道の森のひとつの特徴は樹種が多いことです。その中には用途にぴったりの木があります。一口に木といっても硬いもの柔らかいもの、軽いもの、重いもの、色も模様もみんな違います。生きているときの姿も当然違いますが、木材となってもその木、その木の特徴をもっています。これを組み合わせて使うこと、それがまさに「適材適所」です。その最たるものが「ピアノ」です。

「この木の仲間たちがみんなの椅子になるんだよ」木の椅子を使う幼稚園児と一緒に森に行き、クルミの木を見に行きました。実を拾って、割って食べたりしたことがある子どももいましたが、まさか、その木が「椅子」に変身するとは想像もしていなかったようです。「樹」から「木」へ。原木から木材、そして椅子なっていく行程も子どもたちにも体験してもらいました。「木は伐ると死んじゃうの？　かわいそう」という女の子もいました。しかし、そういう後ろめたさがものを大切にする心を育ててくれると思います。木という素材はまさに生きているものを活用して、自分たちがいきているという感覚を取り戻してくれると思います。

「木は二度生きる」森に生きる命をいただき、もう一度それを生活の中で活かす、そんなライフスタイルを再構築していきたいものです。

宮本英樹（NPO法人ねおす）

北海道らしい環境学習・エコツーリズムを推進する一方、地域づくりや木育、森づくり等にも積極的に関わる。北海道木育プログラム等検討委員会委員長。置戸町出身。

森のキモイキレイ

のぞいてみたら何かがいるよ。
ちょっとキモチわるい？
よく見るとおもしろい！
さがしてみよう、森のいきもの。
ほら、いのちのふしぎにあふれてる。

文と写真：中島宏章
制作：morinoko(新岡薫・宮本尚)

キミのみぢかにいる その2 コウモリさん

ヤカ　サマ　コウモリ　イエレリコウモリ

どうして逆さまにとまるの？

コウモリは空を飛ぶために、下半身をとても小さくして体を軽くした。その小さな足で自分の体重を支えることはできない。だから、ぶら下がるのが一番ラクなんだ！

よるはおでかけ

中島宏章さん

「全ての生き物には必ず何かしらの魅力がある」という信念を持ち、誰もが見逃してしまうような生物のドラマに独自の感性でカメラを向ける。ライフワークでもあるコウモリの写真で田淵行男賞を受賞。札幌市出身。
ホームページ　http://hirofoto.com/

ボクは札幌で生まれ育ちましたが、成人するまでコウモリがいるなんて知りませんでした。そんなコウモリですが、いろいろ調べてみるとオモシロイことだらけ！　しかも、実際に見てみると何とも言えず可愛い！　こんな素晴らしい生物が北海道にいる。なんて素敵なんだ！　とボクは思うのです。

ちょっとカワイイでしょ？

こんなところをさがしてごらん…

コウモリといえば「洞窟」。実はそれは間違い!!
木の穴の中、枯葉の中、そして雪の中にもいることがあるんだ！

ひるまはおやすみ

コウモリはとても小さい

北海道にいるコウモリは小さい種類が多い。たとえばコテングコウモリの重さは4グラムほど。4グラムといえば1円玉が4枚と同じ重さ。身体の大きさも5センチほどしかない！

超音波で"見る"

コウモリは夜行性。真っ暗では目は使えない（コウモリも目は見えているよ！）だから超音波を口から出して、まわりの状況を認識しているんだ。コウモリを探すには超音波が聞ける機械を使う。その名も「バットディテクター（コウモリ探知機）」！！

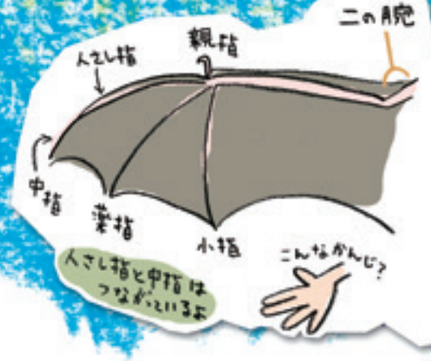
BAT TRIP
ぼくはコウモリ
中島宏章 著
北海道新聞社
1,500円（＋税）

ドラキュラのお供、ハロウィンのキャラクター…。キミにとってのコウモリは、おとぎの国のちょっとコワい住人かもしれない。でもほら、遠足で行った森や裏山、いつも通る道の外灯にも小さなコウモリが暮らしているって、知っていた？
中島さんが写真と文章でつむぐコウモリの物語は、とっても身近。どこか遠くの山奥じゃない。自分のまわりの生き物への興味がわいてくる、絵本のような、図鑑のような写真集です。

コウモリ、見たことある？

北海道にはコウモリがたくさんいる。その数、なんと19種類!!
もちろん札幌にだっていっぱいいる！北海道で一番種類の多い「哺乳類」は、コウモリの仲間なんだ！ちなみに日本には吸血コウモリはいません!!

コウモリの翼は指!!



翼をよーく見てみると、手の指が伸びて出来ているのが分かる。翼の部分（膜）は皮膚。とても薄いよ！

北海道のコウモリさん

コテングコウモリ
枯葉の中や雪の中にもいる、変わり種。

ドーベントンコウモリ
川や湖にいる。日本では北海道だけに生息。

ヤマコウモリ
翼を広げると40センチほど。北海道で一番大きいコウモリ。

morinoko

新岡薫／エトブン社
北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとコワい。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。
ブログ　http://etobunshainyezo.blogspot.com/

宮本尚／きたネット
森好き、ヘンなイキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近はキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいと思いつつなかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ！
Facebook　http://www.facebook.com/nao.easter

Report

コープの森 植樹祭
～札幌地区 当別町神居尻地区～

春の青空の下、雪を頂く山を見上げながら植樹です。小さな子も大きな子も、掘った穴から一生懸命小石を取り除き、みんなで「大きく育て」と声を掛けながら木を植えました。

今年も太陽の下で森づくり

前日までの「曇りのち雨」の天気予報はどこへやら。初夏の太陽の光がさんさんと降り注ぐ植樹日和の5月28日、4回目となる道民の森神居尻地区での植樹祭が行われ、今年も200名の組合員さんと新入職員45人が参加しました。

「木を育てると同時に木を使い、森で遊ぶことを心がけていきましょう」という前濱理事の挨拶や、柿澤運営委員長による「全道の森づくり団体を支援し、つながりづくりをしている」というコープ未来の森づくり基金の説明の後、道民の森ボランティア協会のみなさんによる植樹レクチャーを受けて次々とスコップを手にする参加者。穴を掘っては石を取り除き、苗を植えた後は「大きく育ってね」と声を掛けながらやさしく根元の土を押さえていました。

そうして植えられたのは、ハルニレ、ケヤマハンノキ、ヤマモミジ、シラカンバ、ミズナラの苗、合計1500本。どれも北海道を代表する広葉樹です。

親子で参加した方は子どもとの思い出や記念に、友人を誘い合わせて参加したみなさんは楽しい思い出を、そして未来の子どもたちのために自分たちができることをしたいという使命感を持った人、それぞれの思いを胸に、1時間ほどで全ての苗木を植えたのでした。

森を楽しむことも大切な森づくり

こうしてみなさんの思いをこめて植えられた1本1本が、数十年後に植樹地のまわりの森のような豊かな森になって、それがまた北海道と未来の宝物として受け継がれていきます。でも、木を植えるだけが未来のための森づくりではありません。森のことを学び、楽しみ、その多様な価値と大切さを伝えていくこと。それがもうひとつの大切な要素。

そこで、昼食後は森林を学び、楽しむ時間となりました。道民の森森林ボランティアの方にガイドを受け、春の気持ちの良い森の中を、森がどれくらいの水や空気をきれいにしているかというお話を聞いたり、昔の神居尻の森がどんな場所だったのかを教えてもらったりして森を歩き、いつの日か自分たちが植えた木がこんな風に豊かな森になることを思い描きながら森を眺めたのでした。

こうした植樹祭は全道8カ所で行われ、コープの森は広がっています。

Report
コープの森 植樹祭
～札幌地区 当別町神居尻～

大きなミズナラの下で、この木が生きていた頃のお話を聞く（写真①）。そんなに昔から生きていることを不思議に思うのか、みんな真剣に聞き入る（写真③）。道々目を楽しませてくれるのは春の花。スミレの仲間（写真②）。

私達が植えてる木って、どんな木？

植樹図譜
pictures of planting trees

①水楢

和名：ミズナラ
英名：Japanese oak
植樹地：東川町、当別町知内町

ミズナラの花

ミズナラの実は、いわゆるドングリ

水を多く含むことからミズナラと名付けられた、北海道を代表する広葉樹です。ドングリの木といえば北海道ではこの木を思い付くように、アイヌ語ではペロニと呼ばれ、ペロ（ドングリ）のなる木を意味するとのこと。

北海道産のものは加工しやすく見栄えも良いため、かつてヨーロッパに盛んに輸出された世界に誇る銘木で、フローリング材や家具材に使われました。また、キノコのほだ木や炭の原木として生活を支えてきた、身近な木でもあります。

ドングリは鳥や動物の貴重な栄養源でもあり、森と人を支える重要な木です。

森を見守る
植えるだけが森づくり？
あすもりサポーター活動レポート ①

雪の重さで曲がってしまった部分にやさしく添え木するサポーター

木を植えるのはいいことだ。木を植えることで森ができる。でも、子育てと同じで、植えただけでは木はなかなか育ってくれないのを知っていますか？

土が合わなかったり、土が凍って根が浮いてしまったり、動物や虫にかじられてしまったり…木が大きくなるまでに立ちふさがるたくさんの障害。それを乗り越えて生長できる木はほんのわずかです

できるだけ多くの木に育ってもらうには、むしろ植えた後の木々のケアの方が大切。浮いてしまった根を踏み、雑草を刈り、木の成長を見守る。人の手で植えた木には、人の手による「育樹（いくじゅ）」が必要なのです。

そうして木の成長を手助けしているのが、サポーターのみなさんです。

ここ神居尻の植樹地は、植えられた次の冬の間にウサギに食べられてしまったり、雪で曲がったり折れたりする苗木が目に付きます。組合員さんの手で1本ずつ大切に植えられた苗が雪で曲がってしまってもサポーターのみなさんがやさしく添え木をして支え、木々は少しずつ生長して森に育っています。みなさんも、植えた木の成長を見守って時々様子を見に来てください。そして、あすもりサポーターに参加しませんか？

Sponsors

2010年度 コープ未来の森づくり基金 ご協賛を頂いた企業・団体様

ご協賛を頂きありがとうございました

コープ未来の森づくり基金は、下記の企業・団体の皆様をはじめとする多くの方々に支えられて運営しています。

岩下食品（株）	カルビー（株）	大塚食品（株）	（株）ヤマヒサ	（株）アクリフーズ	（株）マルハニチロ	日本ハム北海道販売（株）	味の素ゼネラルフーズ（株）
赤城乳業（株）	丸大食品㈱	大塚製薬（株）	（株）FUJI	ハインツ日本（株）	（株）パールエース	いなばペットフード（株）	（株）北海道ポッカコーポレーション
ヤマダイ（株）	共栄食肉（株）	カゴメ（株）	（株）新進	（株）入福福田商店	日本甜菜製糖（株）	ジャパンフリトレー（株）	北海道キリンビバレッジ（株）
月桂冠（株）	河上水産（株）	兼貞物産（株）	（株）明色化粧品	竹山食品工業（株）	キーコーヒー（株）	北海道森永乳業販売（株）	北海度コカ･コーラボトリング（株）
越後製菓（株）	山下食品（株）	片岡物産（株）	アイシア（株）	エースコック（株）	春雪さぶーる（株）	（株）一印旭川魚卸売市場	日清オイリオグループ（株）
亀田製菓（株）	（株）東ハト	加藤産業（株）	日糧製パン（株）	（株）札幌キムラヤ	理研ビタミン（株）	マースジャパンリミテッド	ハーゲンダッツジャパン（株）
（株）札幌バリ	（株）不二家	かねさ（株）	（株）永谷園	（株）ヤクルト本社	株式会社ホッカン	㈱北海道サンジェルマン	（株）サクラバ札幌営業所
カンロ（株）	株式会社菱食	カルピス（株）	（株）スギヨ	（株）はこだて柳屋	テーブルマーク（株）	シリウス北海道（株）	北海道漁業協同組合連合会
カルビー（株）	日清食品（株）	三立製菓（株）	（株）佐々木畜産	オシキリ食品（株）	（株）ロッテアイス	北海道ベンディング（株）	ＪＡ全農青果センター（株）
（株）土倉	自然庵	田村製麺（株）	ニチロ畜産（株）	ライオン商事（株）	クラシエフーズ（株）	牛乳石鹸共進社（株）	ホクレン農業協同組合連合会
国分（株）	（株）堀川	（株）小倉屋	イトウ製菓（株）	オハヨー乳業（株）	（株）わかさや本舗	（株）一印旭川魚卸売市場	（株）みすずコーポレーション
東海漬物（株）	日本製粉（株）	藤原製麺（株）	井村屋製菓（株）	日本ベネット（株）	コンフェックス（株）	ドギーマンハヤシ（株）	日本ミルクコミュニティ（株）
日本清酒（株）	マルトモ（株）	上野砂糖（株）	江崎グリコ（株）	北日本フード（株）	ＵＨＡ味覚糖（株）	日本生活協同組合連合会	プリマハム（株）北海道支店
（株）ロバパン	岩塚製菓（株）	（株）マンダム	坂栄養食品（株）	ベットライン（株）	エバラ食品工業（株）	日清ペットフード（株）	（株）オニザキコーポレーション
三幸製菓（株）	（株）サンエス	（株）菊水	フタバ食品（株）	北海道味の素（株）	宇治の露製茶（株）	日本アクセス北海道（株）	花王カスタマーマーケティング（株）
（株）ミツハシ	東洋冷蔵（株）	味の素（株）	日清シスコ（株）	大日本除虫菊（株）	株式会社ホクリョウ	日本ペットフード（株）	マルイ食品（株）　関東支店
西山製麺（株）	（株）極洋	貝印（株）	（株）きむら食品	タカノフーズ（株）	マルカワ食品（株）	株式会社コープクリーン	日本生活協同組合連合会北海道支所
岩田醸造（株）	小林製薬（株）	（株）白子	（株）坂口製粉所	ニコニコのり（株）	（株）大一大和屋食品	コープさっぽろ協友会	（株）マルカン　サンライズ事業部
津山製菓（株）	出塚商店	（有）中田食品	（株）テンヨ武田	ケンミン食品（株）	阿部牛肉加工（株）	北見工業大学生活協同組合	プライフーズ（株）第一プライラーカンパニー
フジッコ（株）	（株）宝幸	（株）ソラチ	アサヒ飲料（株）	サッポロ飲料（株）	味の素冷凍食品（株）	米久（株）　札幌支店	大日本印刷株式会社 (Dai Nippon Printing Co., Ltd.)
明治乳業（株）	大王製紙（株）	明治製菓（株）	（株）エコＥＲＣ	（株）入福福田商店	北海道森永乳業（株）	伊藤ハムデイリー（株）	ホクト（株）苫小牧きのこ研究開発センター
天恵製菓（株）	福山醸造（株）	森永製菓（株）	かどや製油（株）	（株）北海道日水	ヤマザキナビスコ（株）	札幌佐々木畜産（株）	
（株）ナシオ	東海澱粉（株）	ライオン（株）	エスビー食品（株）	カネカ食品（株）	（株）シービーフーズ	（株）おやつカンパニー	
伏見蒲鉾（株）	東洋水産（株）	やまう（株）	キユーピー（株）	グリコ乳業（株）	サツラク農業協同組合	サントリーフーズ（株）	
森永乳業（株）	（株）桃屋	日進乳業（株）	日清フーズ（株）	デリー物産（株）	北海道酒類販売（株）	はごろもフーズ（株）	
（株）山星屋	ベル食品（株）	小林商事（株）	マルコメ味噌	（株）シービック	ヤマトモ水産食品（株）	サンヨー食品販売（株）	
宝酒造（株）	（株）菊田食品	（株）伊藤園	ネスレ日本（株）	山崎製パン（株）	新東北化学工業（株）	キッコーマン食品（株）	
ヤマキ（株）	（株）ミツカン	（株）宇治園	ヤマサ醤油（株）	王子ネピア（株）	ジュジュ化粧品（株）	丸美屋食品工業（株）	
（株）湖池屋	（株）紀文食品	（株）小原	ハウス食品（株）	（株）サンメイト	（株）ニチレイフーズ	ジェイテイ飲料（株）	
一正蒲鉾（株）	（株）柳屋本店	ニチリュウ	北海道乳業（株）	（株）エンパイヤ	（株）マルハニチロ食品	ブルドックソース（株）	

（順不同）

再生 Column

磨けば光る、森がある。

宮本（みやもと） 尚（なお） NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」理事

オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児（者）の介護・マネージメントなどを経て、現在は「NPO法人北海道市民環境ネットワーク」理事・事務局。シンガー・ソング・ライター。共生していた黒猫が６月に他界、もう１匹の18歳２ヵ月の猫と私は、ちょっと寂しい今日この頃。

森の中に続く小径（こみち）を抜けたところに木もれ日が降りそそぐ小屋をもち、そこで四季折々の自然を愉しむ暮らし。それは都市に暮らす人の憧れの生活のイメージです。

バブルの時代、私は生まれ育った道東の町を離れて東京で暮らしていました。そのころ新聞の折り込みには、北海道の格安別荘地の広告がよく入ってきました。海の見える丘、白樺林といった北海道のイメージ写真、空港まで車で○分、ゴルフ場まで○分。交通の便利さや投資の価値、四季折々のレジャーなど、キラキラ輝くリゾートライフの夢を描くチラシ。桁違いに土地価格が安いから、たくさんの人が「いつかのための夢」として、見ることもせずに土地を買いました。

これが、悪質な不動産販売業者が、下水も電気もない、訪れようにも道がない、無価値に等しい土地を、「もうすぐ道路ができる、別荘地として値上がりする」などと言って売りつける「原野商法」でした。北海道を知っている人なら、こんなところに住めるのだろうかと疑問に思うでしょう。しかし当時はインターネットで気軽に確かめる方法もなく、都心の人には北海道の森の深さや距離感がわかりません。その後バブルは崩壊。「いつかは別荘暮らし」という庶民の小さな夢は遠ざかりました。

この原野商法で売られた土地が、今、北海道のいたるところに、ジグソーパズルのかけらのように散らばっています。大抵は測量もされず、土地の境界も分からず、所有者を探すのも至難の技。当時買った人が亡くなってしまい、相続者が見つからない場合もあります。公園や里山として活用したくても「私有地」なので入ることすらできません。また、原野商法だけではなく、相続したけれど持ち主は都市住民で管理できない森、昔は活用していたけど今は誰も行かない裏山など、北海道にはそんな荒れた森がたくさんあるのです。

北海道で森づくりをしている団体の中には、こうした民有地の持ち主と森の管理保全契約を結び、森を管理・活用する活動をしている団体があります。白老町のNPO法人ウヨロ環境トラストの活動は、売りに出ていたウヨロ川べりのカラマツ林を、地域で環境活動をしている仲間で買い取ったことからはじまりました。荒れていた森を手入れし、小屋や森を見おろすデッキをつくり、子どもたちがキャンプを楽しみ、森林保全の勉強会が開かれる、森での時間を楽しみにたくさんの人が訪れる空間に変えました。さらに、近隣の荒れた森の持ち主を探し出し、管理保全の契約を結んでフィールドを広げてきました。この私有地の管理保全をNPOが請け負うという活動は簡単なことではありません。ある日突然、見知らぬ団体から「あなたの森の管理をまかせてほしい」という依頼がきたら、誰もが疑いを持つでしょう。ウヨロ環境トラストのメンバーの一人である河野（こうの） 功（いさお）さんは、市民活動ならではの「営利ではなく、あなたの森を豊かで気持ちのいい森に変えていきたい」という思いを伝え、遠隔地の所有者に働きかける活動を成功させてきました。そこには所有者との信頼関係を獲得するまでの長い時間と熱意、そして河野さんが不動産業で培ってきた実務的なノウハウがありました。

「市民による森林再生」のノウハウを全国の森林保全活動をしている人につなぎ、活動に新しい道を拓きたいと、ウヨロ環境トラストでは河野さんが取り組んできた活動をマニュアルにまとめる作業をしています。今、病床にいる河野さんの話をまとめて、今年中には出版する予定です。私も編集会議のメンバーのひとりとして、この本をたくさんの森林保全グループに届ける役割を果たしたいと思っています。♠

協賛企業に聞いてみた。

応援しています コープの森づくり #1

HOKTO ホクト株式会社

ホクトというと、一ヶ所の工場でキノコを作って全国に出荷しているイメージがありますが、実際には各地に生産の拠点があって、地域で消費するきのこは地域で作っています。フードマイレージや地産地消を実践できるし、何より新鮮なきのこをお客さまに提供できます。パッケージも、トレーやラップという便利な包装をやめ、試行錯誤の末に省資源でリサイクルのしやすい素材の包装を開発しました。また、キノコを育てる素材も、木のおがくずではなくてトウキビの芯を砕いた物を使っています。これは、キノコを育てた後に良い肥料になり、農家の方にも喜ばれているんですよ。

それぞれの地域で製品を作っているので、私達は常に地域に根ざしている意識を持っています。「チーム北海道」と言っていますが、特に北海道で製造や販売をする私達は北海道が大好きなんです。だから、北海道のためにできることを地道にでもしたいと考えていました。

コープさっぽろとは、そういう意味で見ている方向が非常に似ているんですね。ホクトの商品をたくさん扱ってもらっていることもあって、一緒に北海道のためにできることという意味でコープの森づくりに協力し、未来のために北海道らしい美しい森を育てていけるように、これからも応援していきたいと思います。そのためには、植えるだけではなくて育てる植樹もしていってほしいですね。私たちも、機会をいただければ、ぜひ具体的な行動にも参加していきたいと思っています。♠

北海道のためにできることってなんだろう。

話してくれたひと 苫小牧きのこ販売課 課長 山崎 勝利さん

ホクト株式会社
http://www.hokto-kinoko.co.jp

Information

国際森林年記念講演会 C.W.ニコルと森を考える

C.W.ニコル

1940年7月14日生。英国ウェールズ生まれ。17才でカナダへ渡り、その後、カナダ水産調査局北極生物研究所の技官として、海洋哺乳類の調査研究にあたる。国際森林年国内委員会委員、アファンの森財団理事長。著書に『風を見た少年』(クロスロード)、『マザーツリー・母なる樹の物語』(静山社)、『魂のレッスン』(NHK出版)、『裸のダルシン』(小学館)など。

申込み方法 「C.W.ニコル講演会」と記入し ①氏名 ②住所 ③電話番号を明記の上、下記のいずれかの方法でお申込み下さい。
※申込み締切：11月8日（火）必着

ハガキ：〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10番1号「基金事務局」宛
ＦＡＸ：011-671-5743
Eメール：csap.k.asumori@todock.jp

携帯電話からはこちらのQRコードをお使いください。

プレゼント ご来場者の中から抽選で20名様に、C.W.ニコル氏の著書『地球絵本 森にいこうよ！』(小学館)をプレゼントします。

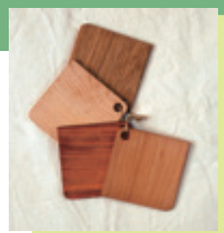
主催 コープさっぽろ、北海道漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道新聞社

Present

アンケート＆プレゼント

「モリイクvol.2」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりのために、アンケートにご協力をお願いします。回答を頂いた方から抽選で3名様に、家具工房旅する木による、樹木見本コースターをプレゼントいたします。

- **Q1** モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい
- **Q2** 面白かった記事はどれですか？下から3つお選び下さい
- **Q3** つまらなかった記事はどれですか？下から3つお選び下さい
  （巻頭コラム(p2,3)、特集(p4～7)、木づかい(p8)、コラム1(p9)
  コラム2(p10)、森のキモイ・キレイ(p11,12)、植樹報告(p13,14)）
- **Q4** 森づくりの活動に参加したことがありますか？（はい・いいえ）
- **Q5** コープ未来の森づくり基金の活動をどう思いますか？
- **Q6** 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい



PRESENT!

「家具工房 旅する木」の須田さんが磨き上げた道産材4種類のコースター。
ミズナラ、ブナ、カエデ、サクラのそれぞれの材の色合いや手触りを楽しめます。

応募方法

はがきにアンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢連絡先を明記の上、下記までお送り下さい。プレゼントの当選は発送をもって替えさせて頂きます。

応募締切 10/30(日) 当日消印有効

〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
コープさっぽろ基金事務局